

【食事状況確認票】について

◆目的

- ＊ 児童の口腔機能や食事状況を確認、評価を行い明確化し、適切な形態の食事を提供する判断材料にするため。
- ＊ 保護者と職員、及び職員同士で情報を共有するため。
 - ・ 児童の口腔機能や食事状況を保護者と確認して記録、書面化することで共通認識を図ることができる。
 - ・ 記録、書面化することで聞き取りに同席できない職員にも共有できる。

◆活用例（参照：記入例）

1 活用するタイミング

- ・ 入園前の面談
- ・ 食事提供開始時
- ・ 発達段階の変化
- ・ 離乳食段階の進行
- ・ 上記以外の定期面談等

2 活用方法

- (1) あらかじめ保護者に該当する記入個所に記入してもらう。
- (2) 園で面談前に該当児童の「口の動き」について評価しておく。
（入園前の面談では評価が困難なので除く）
- (3) 保護者が記入した内容を確認したうえで、現在の状況について、「食材固さ・大きさ確認表」を用いながら互いに確認してチェックする。
（(2)の評価内容はこの段階で保護者と確認しながら記入する）
- (4) チェックした項目から、適切な食事形態を判断する。
- (5) 最下段の園における食事計画の該当の（「離乳初期食」「離乳中期食」などの）食事形態の開始日に日付を入れる。
- (6) 確認事項等があれば記入日と内容を記入する。
- (7) (6)の記入がなくても保護者のサインをもらい、コピーをとって保護者に渡す。
- (8) 一定期間、摂取状況を確認し、問題がある場合には段階を下げるなどの対応修正を行い、それを記録する。修正した対応内容について保護者に確認しサインをもらい、コピーをとって保護者に渡す。
- (9) 再度評価をし、その対応内容で問題なければ記録をする。修正後の対応内容について保護者に確認しサインをもらい、コピーをとって保護者に渡す。
- (10) 提供する食事内容が決定するまで、(8)～(9)を繰り返し行う。
- (11) 次の段階に進む場合は再度(1)から確認を行う。

※ 上記はあくまでも「例」です。活用するタイミングや方法は園で運用しやすいもので構いません。

目的に沿って児童に適切な食事が提供できるようにご活用ください。

聞き取りについては急かしたりすることなく、こどもそれぞれの食欲や摂食行動、成長・発達パターン等にあわせて進めるようにしましょう。